

News Release

夏に多発！扇風機の経年劣化やエアコンの電源コードのねじり接続で火災のおそれ

～使用前に扇風機の動作やエアコンの電源コードを必ず確認しましょう～

これから扇風機^{※1}及びエアコン^{※2}を使う機会が増えてきますが、毎年、6月～8月は、古い扇風機の部品劣化や、エアコンの電源コードの不適切な接続などによる事故が多く発生しています。使用を開始する前に、扇風機やエアコンに異常がないか確認し、事故を未然に防ぎましょう。また、扇風機の事故は3割以上^{※3}が学校や病院等の一般家庭以外の場所で発生しています。公共の場などで共用品として使用する場合等においても注意が必要です。

NITE(ナイト)に通知された製品事故情報において、扇風機やエアコンの事故が平成23年度～平成27年度の5年間に合計570件^{※4}(扇風機272件、エアコン298件)あります。事故の被害状況を見ると、死亡8件、重傷6件などとなっています。平成27年度においては81件(扇風機18件、エアコン63件)の事故が報告され、70件(86%)が火災に至っています。

■扇風機の事故事例と注意事項

- 学校に設置されていた扇風機から出火し、扇風機及び周辺を焼損する火災が発生した。約45年の長期使用により、扇風機の内部配線が繰り返し折り曲げられ、本体台座部分で断線し、スパークが発生し、発火したと考えられる。(平成27年8月新潟県)



(写真) 焼損のイメージ

- 異音がしたため確認すると、扇風機及び周辺を焼損する火災が発生していた。約38年の長期使用により、モーターの部品が劣化してスパークが発生し、扇風機と周辺を焼損したものと考えられる。(平成25年10月佐賀県)
 - ⇒ コンデンサーやモーターコイル等の電気部品や扇風機的首振り部分は、長期の使用により劣化していきます。動きが悪い・動かなくなった、モーターから異音がる、モーターケースが発熱する、焦げ臭いような異臭がる等の症状が出た場合は使用を中止してください。なお、古い扇風機は部品の劣化が火災の原因になっていますので、買い替えをお勧めいたします。

■エアコンの事故事例と注意事項

- エアコンの電源を入れたまま外出中、エアコンが焼損し周辺を汚損する火災が発生した。施工業者がエアコンの電源コードを、途中で別のコードと「ねじり接続^{※5}」しており、接続部分が接触不良で異常発熱し、エアコン及び周辺を焼損したものと考えられる。(平成27年7月東京都)
 - ⇒ 電源コードの「ねじり接続」等の改造や、テーブルタップなどを用いた延長接続は絶対にしないでください。本人が行ってなくても、施工業者等が行っている場合もあります。使用を開始する際はご確認ください。



- 家人不在時にエアコンから発火し周辺を焼損した。エアコン洗浄時に内部のモーターに洗浄液が付着したためトラッキング現象が発生し、発火に至ったものと考えられる。(平成27年7月愛知県)
 - ⇒ エアコン洗浄の際には、ファンモーターなどの電気部品に洗浄液がかからないよう十分にご注意ください。ご不明な点がある場合は、製造事業者などの専門知識を有する事業者にご相談ください。

- (※1) ファンの見えないものやサーキュレーターを含む。USB接続の扇風機は含まない。
- (※2) ルームエアコン（室外機、室内機）に加え、コンプレッサーを使用する冷温風機も含む。
- (※3) 事故発生場所が判明しているものに限る。
- (※4) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故（ヒヤリハット情報（被害なし）を含む）。
- (※5) 接続器具等を使用せずに、電源コードの芯線をねじり合わせることで別のコードと芯線同士をつなぐ方法。

1. 事故の発生状況

(1) 製品別 年度別 事故発生件数

図1に「製品別 年度別 事故発生件数」を示します。

平成23年から27年度の5年間の扇風機及びエアコンによる事故570件のうち、349件(61%)が火災に至っています。平成27年度をみても、扇風機及びエアコンの事故は81件報告されており、事故の減少が認められない状況です。特に扇風機における経年劣化による火災事故は平成26年度が1件だったのに対し、平成27年度は7件と、6件増加しています。

平成24年度の扇風機における火災以外の事故132件は、内116件が、同一事業者によるリコール製品の事故です。

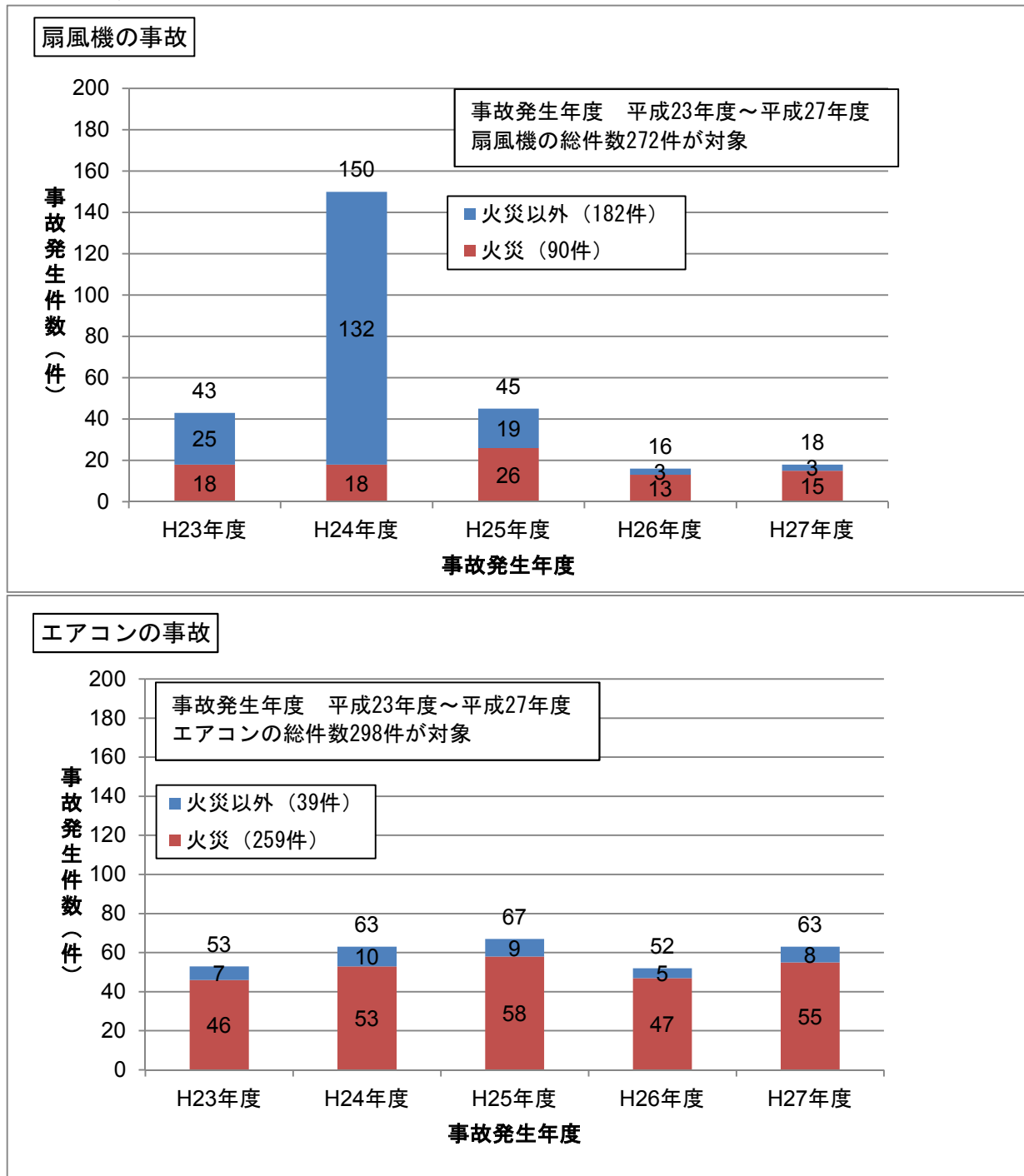


図1 製品別 年度別 事故発生件数

(2) 製品別 月別 火災事故発生件数

扇風機及びエアコンによる事故 570 件のうち、火災事故 349 件（扇風機 90 件、エアコン 259 件）について、図 2 に「製品別 月別 火災事故発生件数」を示します。

扇風機及びエアコンによる火災事故は 6 月から 8 月にかけて最も多く、年間の半数以上（178 件：51%）がこの 3 か月間で発生しています。

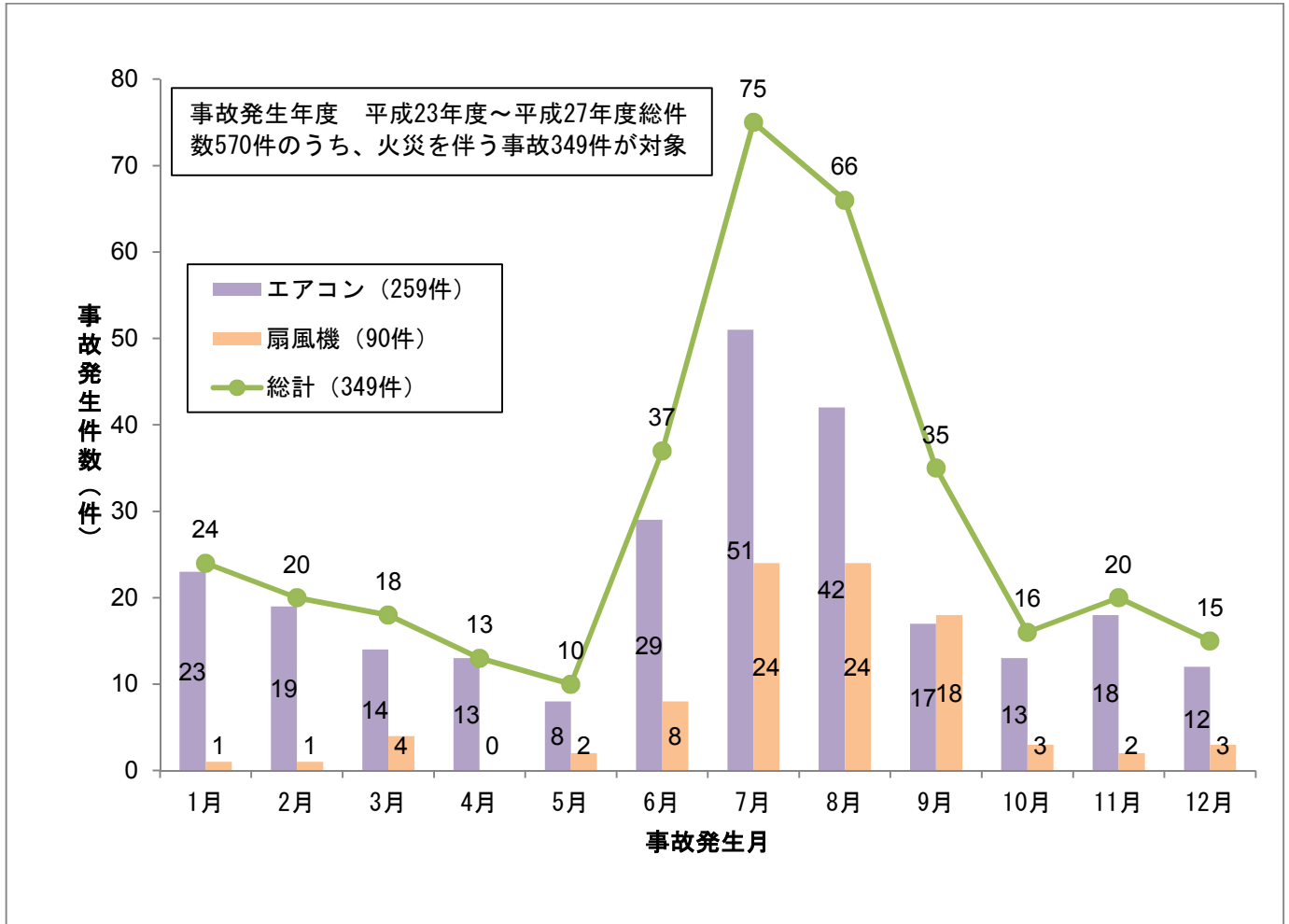


図 2 製品別 月別 火災事故発生件数

(3) 事故原因区分別 事故発生件数

(i) 扇風機

図 3-1 に「扇風機の事故原因区分別 事故発生件数」、及び表 1-1 に「扇風機の事故原因区分別 被害状況」を示します。

事故原因区分（別紙 1 参照）に基づいて分類すると、

- 製品に起因する事故（事故原因区分 A、B、C、G3） 233 件（86%）
 - 製品に起因しない事故（事故原因区分 D、E、F） 8 件（3%）
 - 原因不明のもの（事故原因区分 G3 を除く G） 31 件（11%）
- の比率になっています。

扇風機による事故は、「製品に起因する事故（事故原因区分 A、B、C、G3）」が 233 件（86%）と多く発生していますが、そのうち 116 件が同一事業者によるリコール製品の事故であり、製造不良によって扇風機の首部分が破損するという内容です。また、「C：経年劣化によるもの」として「長期使用によって絶縁劣化や接触不良等が生じ、異常発熱やショートして発火」したものが 44 件ありました。その他「A：設計・製造又は表示等に問題があったもの」の中には「羽根の固定部分に不純物が混じっていたため羽根が割れた」ものがあります。

扇風機による事故を被害状況別にみると、死亡事故 3 件の全てが火災事故であり、5 人が死亡しています。（詳細は別紙 5 参照）

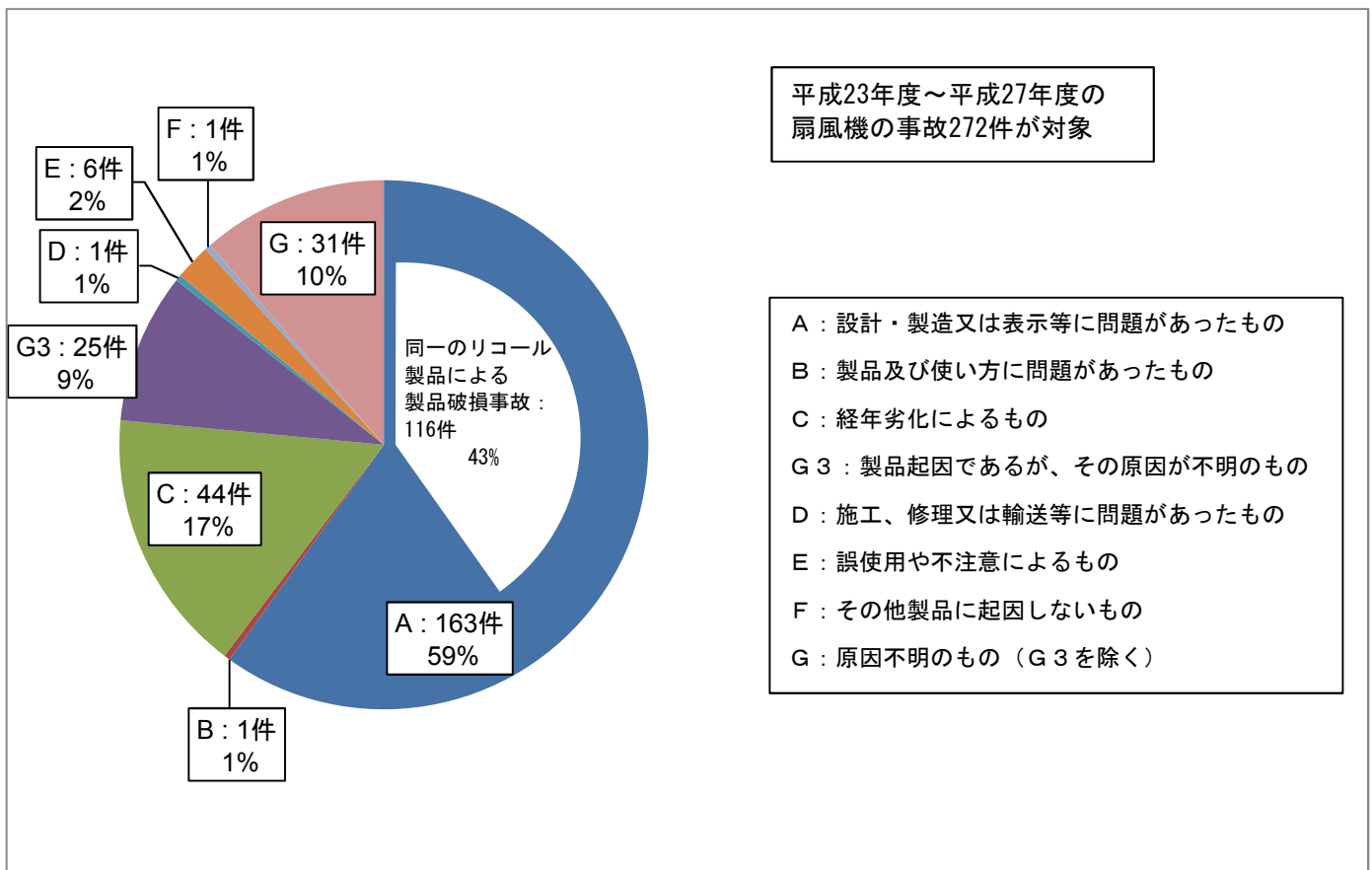


図 3-1 扇風機の事故原因区分別 扇風機の事故発生件数

図 3-2 に「事故原因区分別 使用期間別 火災事故発生件数」を示します。

扇風機の火災事故は、長期使用に伴う経年劣化によるものが多く、使用期間が 20 年を経過した頃から事故が発生しています。また、使用期間が 40 年を超す事故も 30 件以上あり、長期間にわたり使用が継続され、事故に至っている状況です。

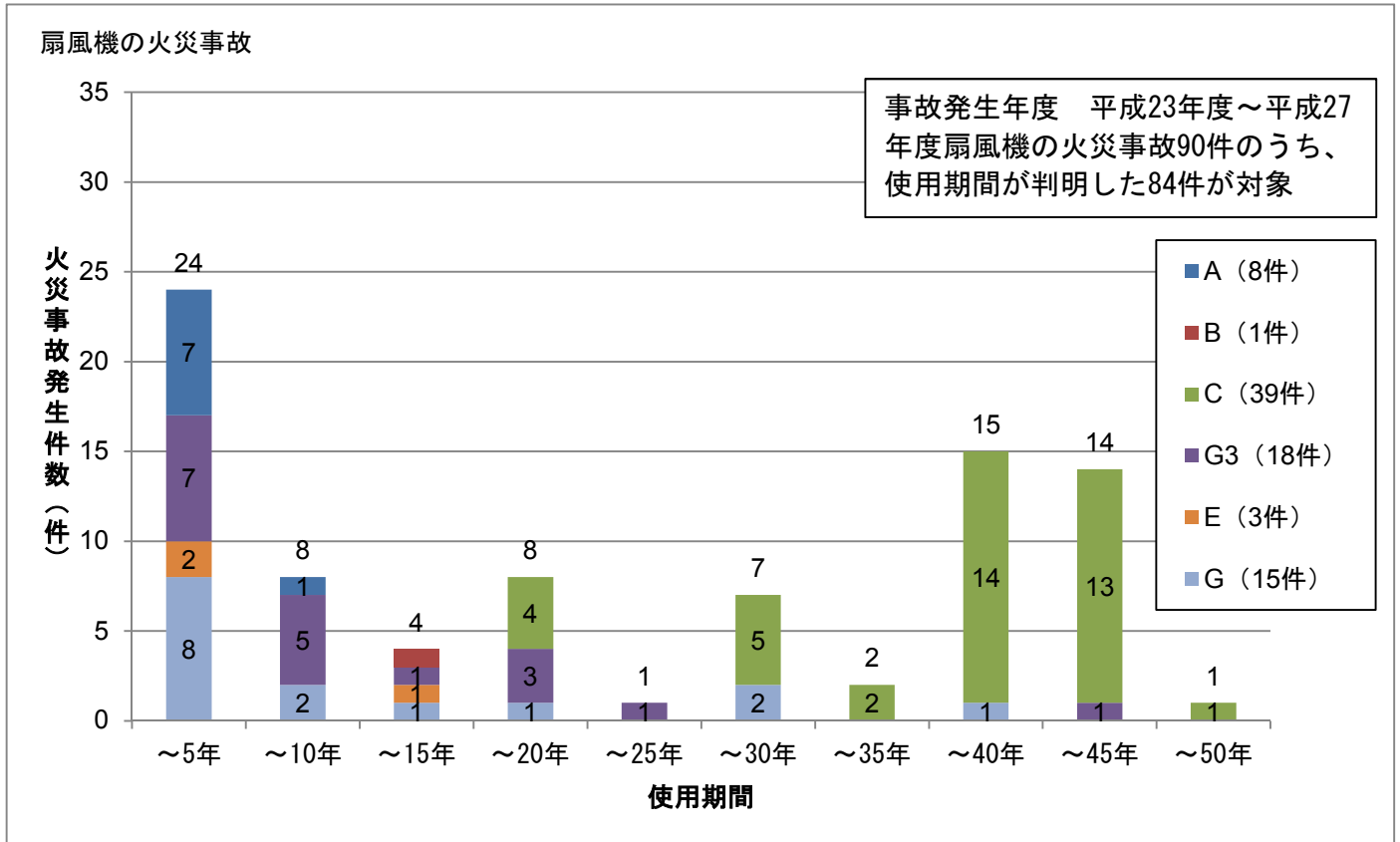


図 3-2 事故原因区分別 使用期間別 火災事故発生件数

- A : 設計・製造又は表示等に問題があったもの
- B : 製品及び使い方に問題があったもの
- C : 経年劣化によるもの
- G 3 : 製品起因であるが、その原因が不明のもの
- D : 施工、修理又は輸送等に問題があったもの
- E : 誤使用や不注意によるもの
- F : その他製品に起因しないもの
- G : 原因不明のもの (G 3 を除く)

表 1-1 扇風機の事故原因区分別 被害状況^{※6}

原因区分		被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計
			死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの			1 (1)	4 (4)	8 [6]	150 [2]		163 (5) [8]
	B: 製品及び使い方に問題があったもの						1 [1]		1 [1]
	C: 経年劣化によるもの			2 (2) [2]	2 (2) [2]	30 [30]	10 [6]		44 (4) [40]
	G3: 製品起因であるが、その原因が不明のもの				1 (6) [1]	14 [14]	9 [5]	1	25 (6) [20]
	小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	3 (3) [2]	7 (12) [3]	52 (0) [50]	170 (0) [14]	1 (0) [0]	233 (15) [71]
製品に起因しない事故	D: 施工、修理又は輸送等に問題があったもの						1 [1]		1 [1]
	E: 誤使用や不注意によるもの				3 (4) [1]	2 [2]	1		6 (4) [3]
	F: その他製品に起因しないもの						1		1
	小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	0 (0) [0]	3 (4) [1]	2 (0) [2]	3 (0) [1]	0 (0) [0]	8 (4) [4]
G: 原因不明のもの(G3を除く)			3 (5) [3]	1 (1) [1]		13 [12]	13 [1]	1	31 (6) [17]
H: 調査中のもの									
合計	事故件数 被害者数 火災件数	3 (5) [3]	4 (4) [3]	10 (16) [4]	67 (0) [64]	186 (0) [16]	2 (0) [0]	272 (25) [90]	

(※6) 平成 29 年 4 月 28 日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。() は被害者数。[] は火災件数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(ii) エアコン

図 3-3 に「エアコンの事故原因区分別 事故発生件数」、及び表 1-2 に「エアコンの事故原因区分別 被害状況」を示します。

事故原因区分（別紙 1 参照）に基づいて分類すると、

- 製品に起因する事故（事故原因区分 A、B、C、G3） 105 件（35%）
- 製品に起因しない事故（事故原因区分 D、E、F） 89 件（30%）
- 原因不明のもの（事故原因区分 G3 を除く G） 86 件（29%）
- 調査中のもの（事故原因区分 H） 18 件（6%）

の比率になっています。

エアコンによる事故は、「製品に起因する事故（事故原因区分 A、B、C、G3）」が 105 件（35%）と最も多く発生しています。内容としては「はんだ付け不良」や「部品不良」による事故などが発生しており、一部は事業者がリコールを実施しています。（別紙 8 参照）

次いで、「製品に起因しない事故（事故原因区分 D、E、F）」が 89 件（30%）発生しています。特に「電源コードの改造や修理、接続（ねじり接続、延長コードとの接続等）により異常発熱・発火」したものが 26 件、「エアコン洗浄により洗浄液が機器内部に浸入してトラッキング現象が発生し、ショートして発火」したものが 15 件、「機器内部に小動物等が侵入し、基板に接触する等によってショート、異常発熱」したものが 7 件ありました。

エアコンによる事故を被害状況別にみると、死亡事故の 5 件全てが火災事故であり、5 人が死亡しています。（詳細は別紙 5 参照）

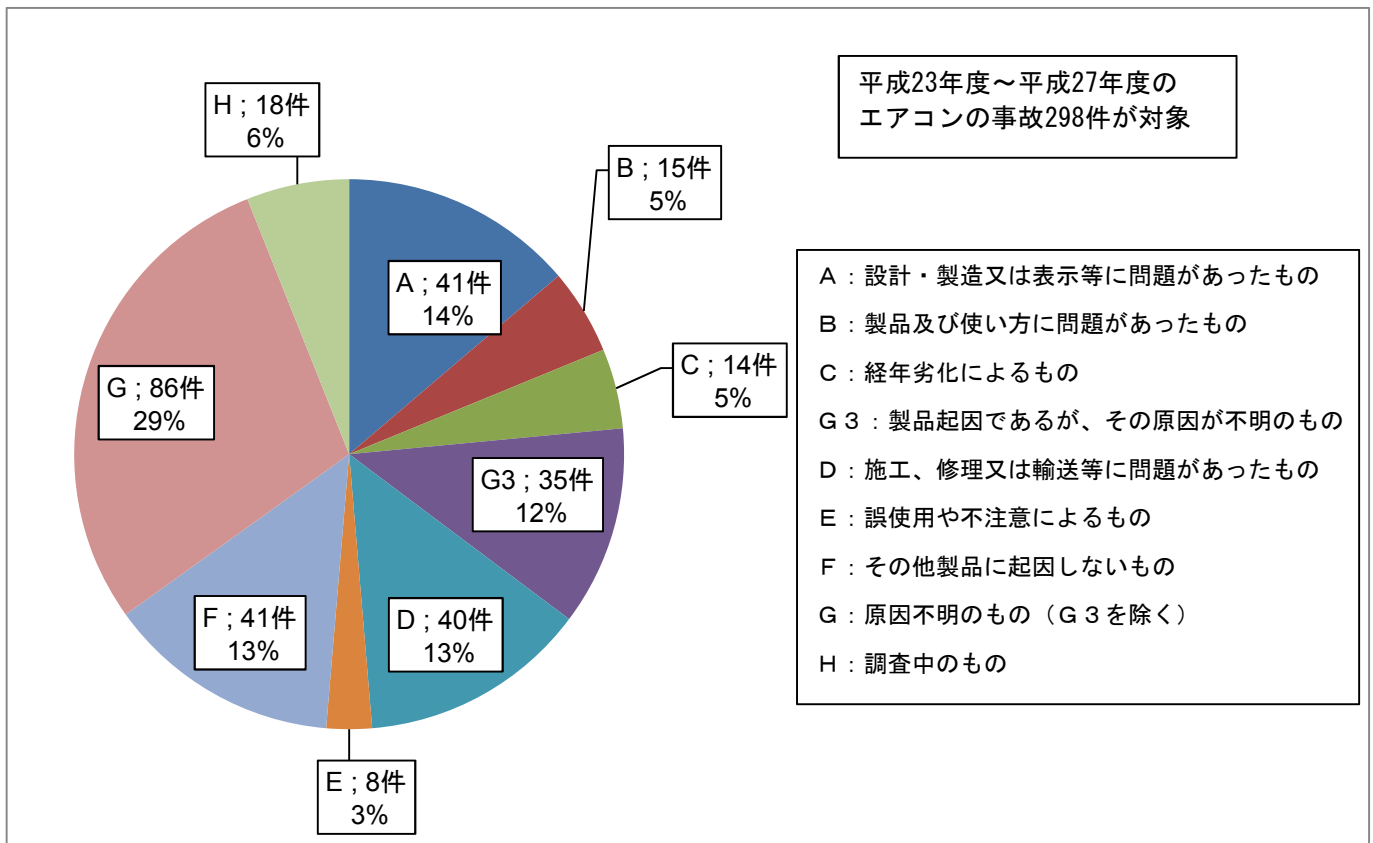


図 3-3 エアコンの事故原因区分別 事故発生件数

表 1-2 エアコンの事故原因区分別 被害状況※7

原因区分		被害状況		人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損				
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの			3 (5) [2]	21 [17]	17 [12]		41 (5) [31]		
	B: 製品及び使い方に問題があったもの				6 [6]	9 [8]		15 [14]		
	C: 経年劣化によるもの				4 [4]	10 [7]		14 [11]		
	G3: 製品起因であるが、その原因が不明のもの			3 (6) [2]	16 [16]	16 [14]		35 (6) [32]		
	小計	事故件数	0	0	6	47	52	0	105	
	被害者数	(0)	(0)	(11)	(0)	(0)	(0)	(11)		
	火災件数	[0]	[0]	[4]	[43]	[41]	[0]	[88]		
製品に起因しない事故	D: 施工、修理又は輸送等に問題があったもの		1 (1)	7 (11) [4]	23 [22]	9 [7]		40 (12) [33]		
	E: 誤使用や不注意によるもの	1 (1) [1]		1 (1) [1]	5 [4]	1 [1]		8 (2) [7]		
	F: その他製品に起因しないもの		1 (1) [1]		29 [28]	11 [8]		41 (1) [37]		
	小計	事故件数	1	2	8	57	21	0	89	
	被害者数	(1)	(2)	(12)	(0)	(0)	(0)	(15)		
	火災件数	[1]	[1]	[65]	[54]	[16]	[0]	[77]		
G: 原因不明のもの(G3を除く)		3 (3) [3]		5 (5) [2]	62 [61]	16 [10]		86 (8) [76]		
H: 調査中のもの		1 (1) [1]			11 [11]	6 [6]		18 (1) [18]		
合計		5 (5) [5]	2 (2) [1]	19 (28) [11]	177 (0) [169]	95 (0) [73]	0 (0) [0]	298 (35) [259]		

(※7) 平成 29 年 4 月 28 日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。() は被害者数。[] は火災件数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 事故の事例と気をつけるべきポイント

(1) 扇風機の事故事例と注意事項

○長期使用によって絶縁劣化や接触不良等が生じ、異常発熱やショートして発火

(イ) 平成 27 年 8 月 18 日（新潟県、年齢性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

学校に設置されていた扇風機から出火し、扇風機及び周辺を焼損する火災が発生した。事故発生前に職員は扇風機が動いていないことを確認していたが、スイッチは「強」に入っていた。

【事故の原因】

約 45 年の長期使用により、モーターとベース部のコンデンサー間を接続するわたり配線が支柱高さ調整及び首振り運転等の繰り返しから折り曲げられ、本体台座部分で半断線し、スパークが発生することで、発火したと考えられる。また、通電しても羽根が回らないことがあったが修理せずに使用を続けていたことも事故発生の原因と考えられる。

(ロ) 平成 25 年 10 月 15 日（佐賀県、70 歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

異音が生じたため確認すると、壁掛型扇風機及び周辺を焼損する火災が発生していた。

【事故の原因】

約 38 年の長期使用により、モーターシャフトの回転が遅くなり、過大な負荷が掛かった状態で使用を継続したため、モーターの巻線が過熱することで劣化が進行してスパークが発生し、扇風機と周辺を焼損したと考えられる。

(ハ) 平成 23 年 8 月 27 日（大阪府、70 歳代・女性、重傷）

【事故の内容】

近隣住民が煙に気づき確認すると、扇風機及び周辺を焼損する火災が発生しており、1 名が重傷を負った。

【事故の原因】

約 29 年の長期使用により、モーター用のコンデンサーが徐々に絶縁劣化したため、ショートし、発熱・発火したと考えられる。

○経年劣化による影響が出やすい部品

平成 23～27 年度の経年劣化による扇風機の事故 44 件は全て以下の部品が劣化したことによる事故です。

- 配線（コード）【44 件中 6 件】
- モーター巻線 【44 件中 12 件】
- コンデンサー 【44 件中 26 件】

扇風機の気をつけるポイント

○製造から長期間経過した扇風機の使用は注意する

製造から長期間経過した扇風機は、製品内部の部品が劣化して事故に至るおそれがあります。このような“古い”扇風機は一般家庭だけでなく、公共の場でも広く使われています。「長期使用によって絶縁劣化や接触不良等が生じ、異常発熱やショートして発火した事故 44 件のうち、「学校」や「病院」といった公共の場で発生した事故は 6 件（学校 3 件、病院 2 件、寺 1 件）ありました。いずれも使用期間は 20 年以上でした。一般家庭に限らず、「事業所」や「寺の本堂」などで“古い”扇風機が今も使われている可能性があるため、注意が必要です。

○使用しない時は電源プラグをコンセントから抜く

扇風機による事故の中には、「動いていないため、スイッチが切れていると思ったが切れていなかった」「スイッチを入れたものの動かなかったため、そのままにしていた」ため、事故に至った事例も報告されています。

特に製造から長期間経過した扇風機においては、異常が見られなくても、使用を中止するか、使用しないときは電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

扇風機の注意事項に加えて、以下のような異常が見られる場合は、使用を中止して、電源プラグをコンセントから抜き、購入店または製造・輸入事業者の修理窓口に相談してください。

- スwitchを入れても羽根が回らない
- 羽根が回っても異常に回転が遅かったり不規則
- 羽根が回転するときに異常な音や振動がある
- モーター部分が異常に熱かったり焦げ臭いにおいがする
- 電源コードに触れるとファンが回転したり、止まったりと動作が不安定
- 電源コードや電源プラグに傷みがある

なお、古い扇風機は部品の劣化が火災の原因になっていますので、買い替えをお勧めいたします。

図 4 に「発生場所別 事故発生件数」を示します。

扇風機の火災事故は、一般家庭以外で発生しているものも多く、平成 23 年度は一般家庭以外の事故が 26%、平成 27 年度は一般家庭以外の事故が 44%発生しています。

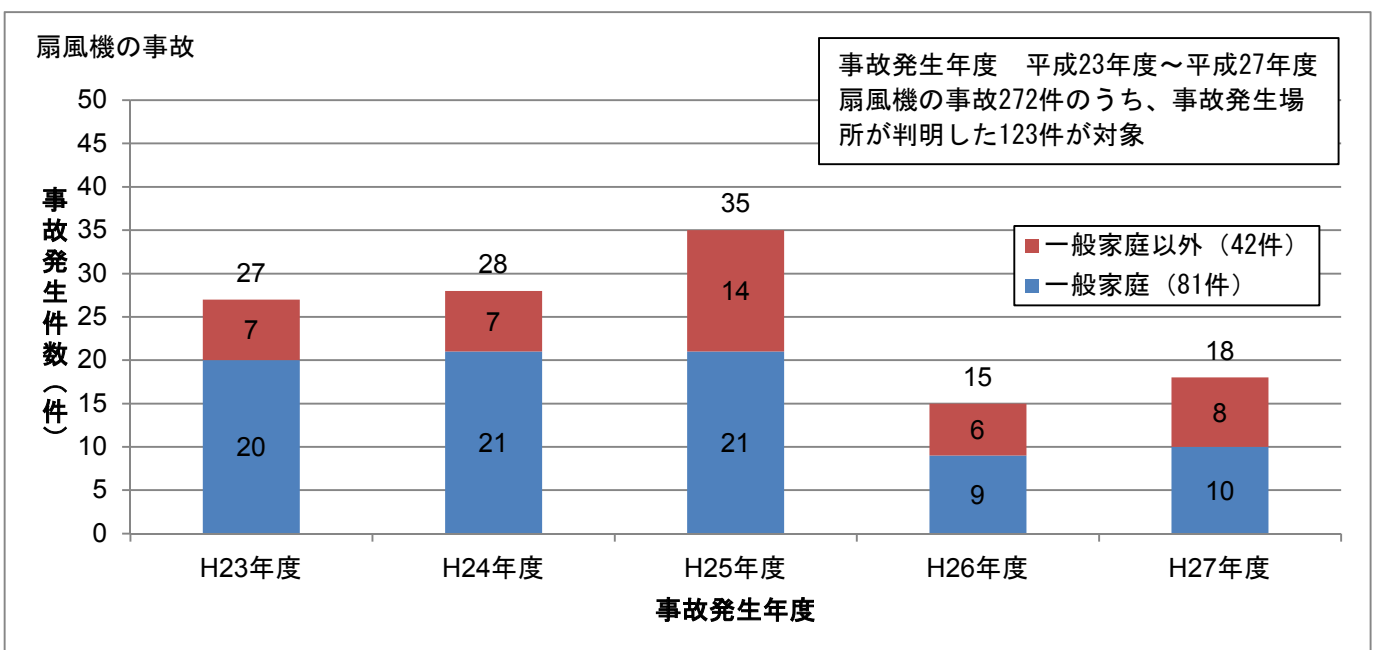


図 4 発生場所別 事故発生件数

(2) エアコンの事故事例と注意事項

① 電源コードの改造や修理、接続（ねじり接続、延長コードとの接続等）により異常発熱・発火

(イ) 平成 27 年 7 月 29 日（東京都、年齢性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

エアコンの電源を入れたまま外出中、エアコンが焼損し周辺を汚損する火災が発生した。

【事故の原因】

100V-15A コンセントに、100V-20A 電源プラグが付いたエアコンを接続するために、施工業者が電源コードを途中で切断し、別の 100V-15A プラグ付きコードに「ねじり接続」していたため、接続部分が接触不良で異常発熱し、発火したと考えられる。

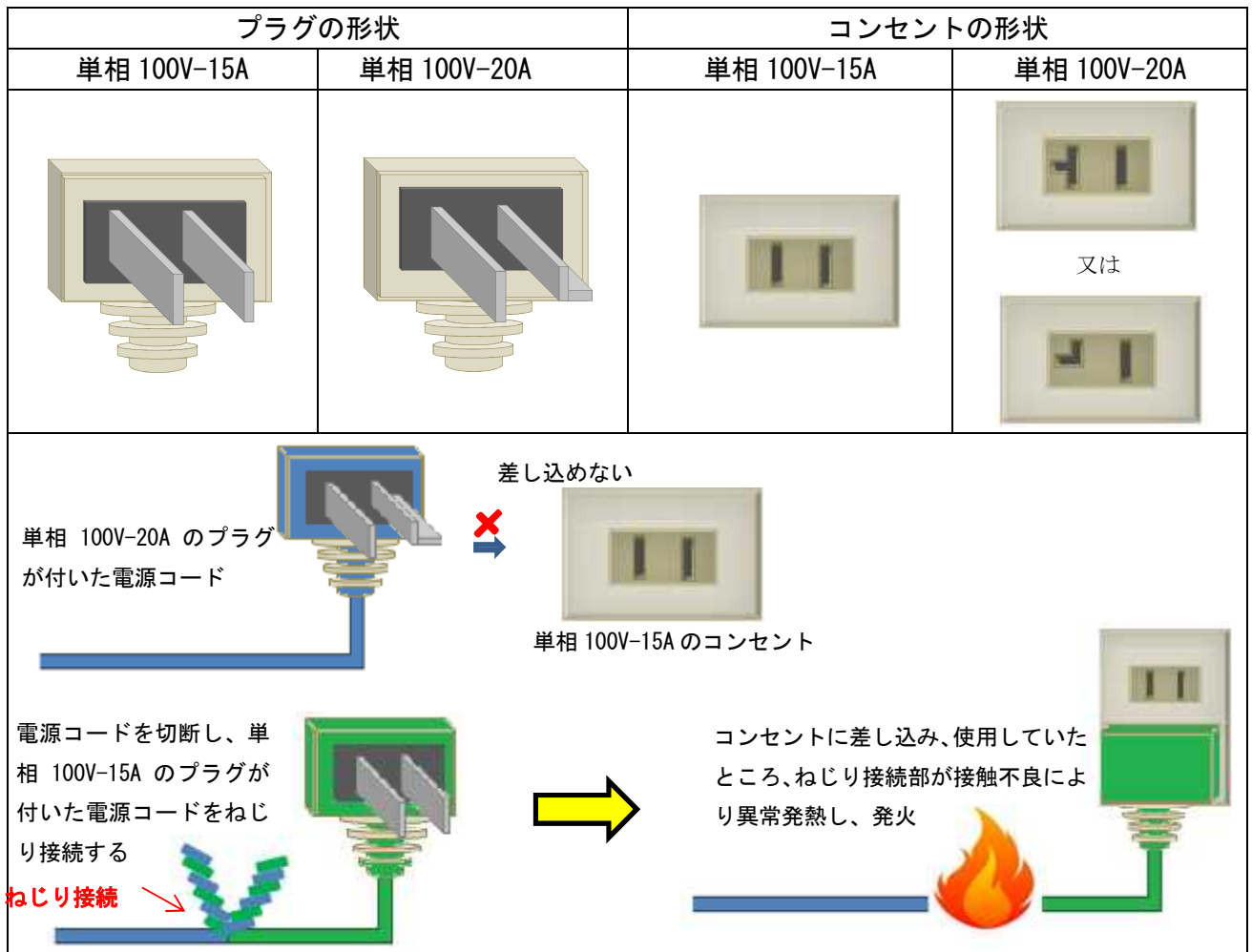


図 5 電源プラグの形状とねじり接続について

(ロ) 平成 26 年 1 月 27 日（石川県、70 歳代・女性、死亡）

【事故の内容】

エアコンを延長コードに接続して使用していたところ、延長コードのタップから出火して住宅を全焼し、1 人が死亡した。

【事故の原因】

エアコンの電源プラグを延長コードに接続して使用していたため、エアコン始動の都度、一時的に延長コードの許容電流量を超える大電流が流れ、それが繰り返されたことで、延長コードのタップ内部が異常発熱し、発火したと考えられる。

エアコンの気をつけるポイント①

○電源コードを改造、加工、修理しない

電源コードをねじり接続などによって他のコードと途中接続する、断線部分をビニールテープで補修する等、電源コードの改造や修理、接続は行わないでください。

接続不良によって、発煙・発火するおそれがあります。

特に、これらの不適切な施工は、引越等で、それまで使用していたエアコンを別の場所に設置する際に、「電源コードが短い」「長すぎる」等に伴って、行われることがあります。

必ず、電気工事の資格を有した業者にご相談いただき、コンセントの移設等の適切な電気工事を行ってください。



(写真) ねじり接続



(写真) 断線部の補修

○電源コードを延長コード、テーブルタップ類と接続しない

エアコンは、延長コードやテーブルタップ等は使用せず、専用のコンセントに直接接続してください。

エアコンは始動時に一時的に大電流が流れるため、テーブルタップや延長コード等を使用すると異常発熱し、発煙・発火するおそれがあります。

② エアコン洗浄により洗浄液が機器内部に浸入してトラッキング現象が発生し、発煙・発火

平成 27 年 7 月 23 日（愛知県、30 歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

家人不在時にエアコンから発火し、エアコン及び周辺を焼損する火災が発生した。エアコンには洗浄液の付着が確認された。

【事故の原因】

エアコン洗浄液がファンモーターコネクタ一部に付着し、トラッキング現象を起こしたため、発煙・発火に至ったと考えられる。

エアコンの気をつけるポイント②

○エアコン内部の洗浄を行う際は、電気部品に洗浄液がかからないように十分注意する

エアコン洗浄^{※9}の際には電源配線、電源基板等やファンモーターなどの電気部品にエアコン洗浄液がかからないよう十分にご注意ください。誤った方法で内部の洗浄を行うと、エアコン洗浄液などが電源配線、電源基板等の電装部品に付着してトラッキング現象を起こし、発煙・発火するおそれがあります。

なお、ご不明な点がある場合は、製造事業者などの専門知識を有する事業者にご相談ください。

(※8) ここでいうエアコン洗浄に、エアコンの「フィルターのほこり取り」は含めない。「フィルターのほこり取り」については取扱説明書に従うこと。

③ 機器内部に小動物等が侵入し、基板に接触する等によってショート、異常発熱

平成 27 年 10 月 7 日（群馬県、年齢性別不明、製品破損）

【事故の内容】

停止中のエアコン室外機から異音がし、製品内部のプリント基板が焼損した。

【事故の原因】

エアコン室外機の基板ケース内部に小動物が侵入し、電源回路の端子部に接触したため、端子間でショートし、発火したと考えられる。

エアコンの気をつけるポイント③**○エアコン室外機のまわりに、ダンボールやゴミ、植木鉢等を置かない**

小動物（ゴキブリ、ナメクジ、ムカデ、ネズミ等）のすみかとなるダンボールやゴミ、植木鉢等を、エアコン室外機のまわりに置かないでください。小動物が室外機内部に侵入し、電源基板に付着することによってトラッキング現象を起こし、発煙・発火するおそれがあります。

○エアコンの配管用壁穴にすき間がないか確認する

エアコン室内機でも、小動物が侵入して発煙・発火する事故が発生しています。

エアコンの配管用壁穴がパテで完全に密閉され、すき間がないか確認し、すき間がある場合は、購入店または製造事業者の修理窓口に相談してください。

すき間があると、ネズミ等が室内機等に侵入し、配線をかじってショートしたり、侵入したゴキブリ等が電源基板に接触しショートして、発煙・発火するおそれがあります。

エアコンの注意事項に加えて、以下のような異常が見られる場合は、使用を中止して、電源プラグをコンセントから抜き、購入店または製造事業者の修理窓口に相談してください。

- ブレーカーが頻繁に落ちたり、正常に動作しない
- 電源プラグが変色している
- 電源コードや電源プラグが異常に熱い
- 焦げ臭いにおいや異音がする
- 室内機から水漏れしている

お問い合わせ先独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 新井 勝己
担当者 穴井、酒井、向井

- 記者説明会当日
電話：03-3481-6566 FAX：03-3481-1870
- 記者説明会翌日以降
電話：06-6612-2066 FAX：06-6612-1617

事故原因区分について

本文中では、事故原因区分を以下の表のように分類しています。

表 事故原因区分一覧

	区分記号	本文表記	事故原因区分
製品に起因する事故	A	設計、製造又は表示等に問題があったもの	専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの
	B	製品及び使い方に問題があったもの	製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの
	C	経年劣化によるもの	製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの
	G3	製品起因であるが、その原因が不明のもの	製品に起因するが、その原因が不明なもの
製品に起因しない事故	D	施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	業者による工事、修理、又は輸送中の取扱い等に問題があったと考えられるもの
	E	誤使用や不注意によるもの	専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの
	F	その他製品に起因しないもの	その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係すると考えられるもの
その他	G	原因不明のもの（G3は除く）	焼損が著しいなどによって、原因が特定できず不明なもの 事故品が入手できないなど調査が行えないもの
	H	調査中のもの	調査中のもの

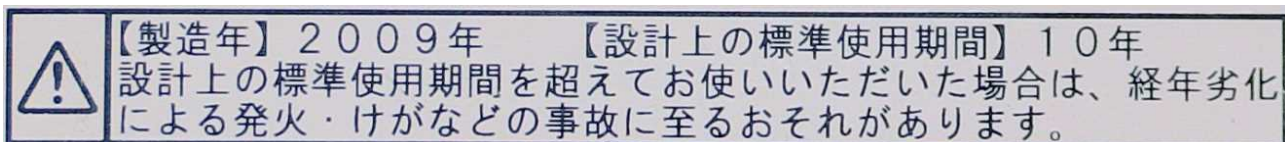
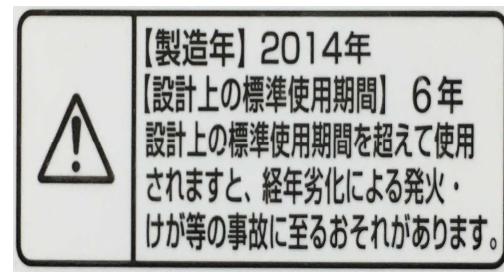
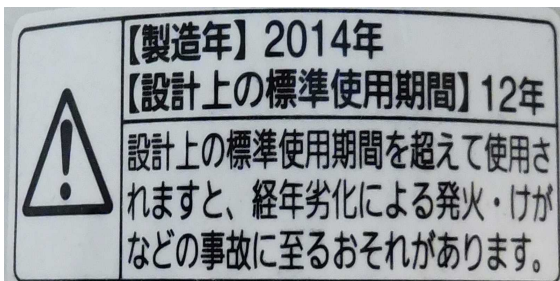
(参考) 長期使用製品安全表示制度

エアコン、扇風機、電気洗濯機（乾燥装置を有するものを除く）、換気扇、ブラウン管テレビの 5 品目において、製品の長期間使用に伴う経年劣化による事故を防ぐため、「長期使用製品安全表示制度」が設けられています。

平成 21 年 4 月以降に製造または輸入された 5 品目においては、「製造年」、「設計上の標準使用期間」「設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがある旨」の表示が義務づけられています。



(写真) 表示場所例



(写真) 長期使用製品安全表示制度 表示イメージ

経年劣化による影響が出やすい部品

○配線（コード）

扇風機の中を通っている配線や本体に電気を送るための電源コード等は、長期間使用する間に移動や首振り運転等で繰り返し折り曲げられて劣化している場合があります。



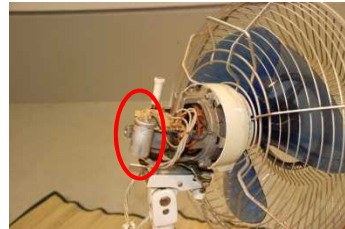
○モーター巻線

扇風機の羽根を回転させるための部品です。表面を絶縁処理した銅線を使用していますが、長期間の使用により絶縁性能が劣化し、スパークを生じる可能性があります。



○コンデンサー

扇風機のモーターを動かすための電気部品です。古い型式のものは可燃性物質が封入されており、経年劣化で異常を起こした際に火災等につながる可能性があります。



エアコンの事故発生件数について

以下に参考情報として、エアコンの「事故原因区分別 使用期間別 火災事故発生件数」及び「発生場所別 事故発生件数」を示します。

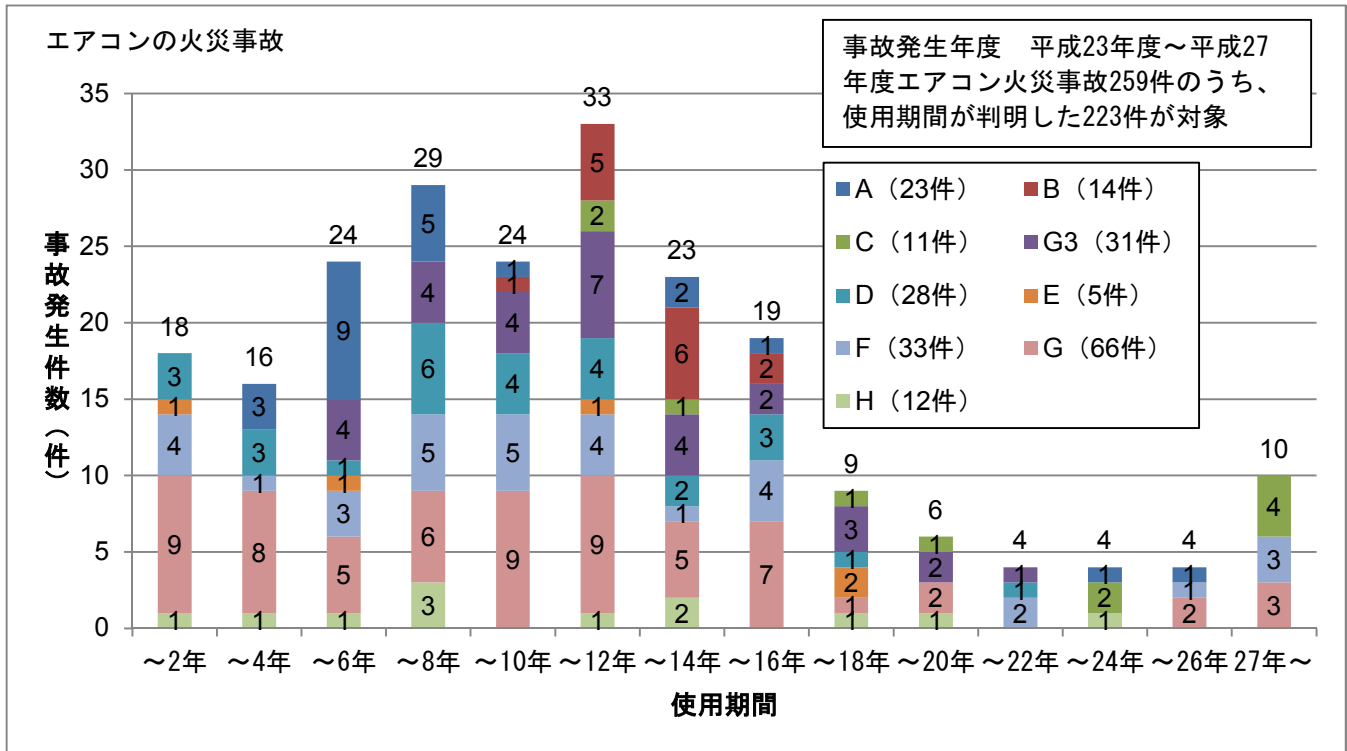


図 6-1 事故原因区分別 使用期間別 火災事故発生件数

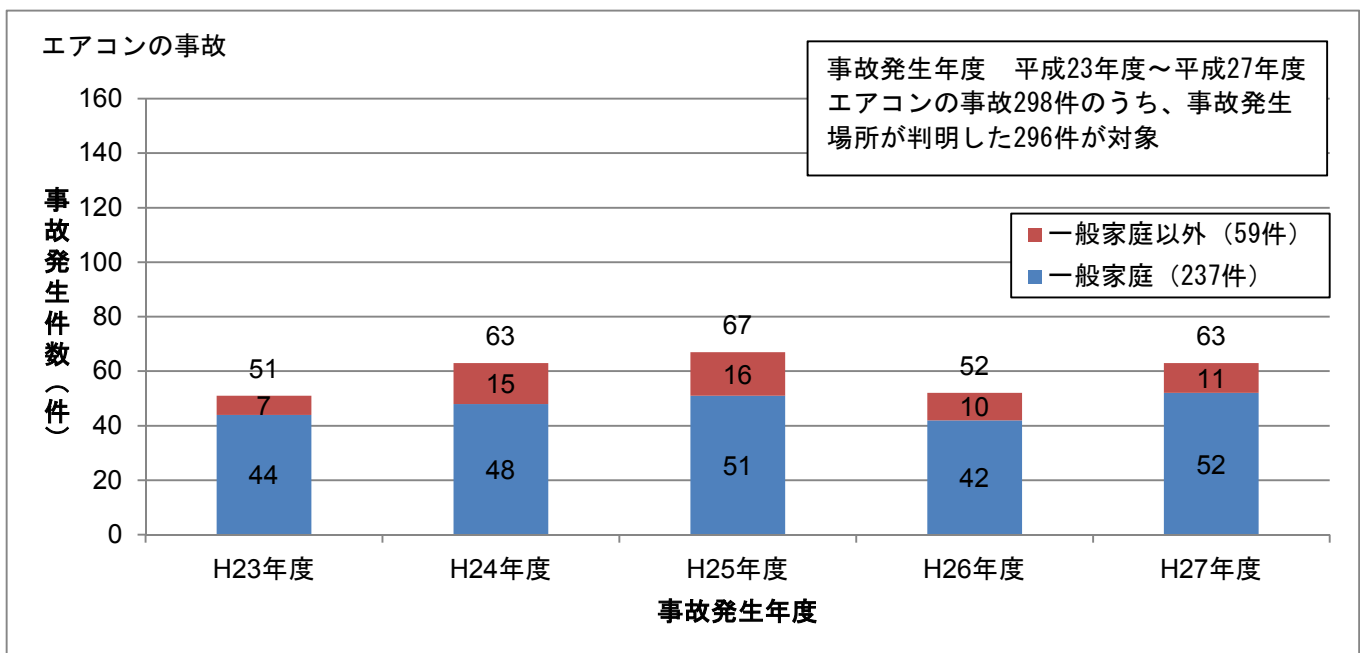


図 6-2 発生場所別 事故発生件数

死亡・重傷事故の詳細

以下に参考情報として、死亡・重傷事故の被害状況の詳細を示します。

(扇風機)

発生日	発生場所	被害状況	使用期間	事故原因
20110711	宮城県	住宅全焼 80歳代・女性1人重傷 (重度のやけど)	約30年	長期使用による経年劣化 (事故原因区分：C)
20120621	沖縄県	集合住宅の1室全焼 50歳代・男性1人重傷 (やけど)	約14日	原因不明 (事故原因区分：G)
20130311	大阪府	周辺を焼損する火災 40歳代・女性1人死亡	約10年	原因不明 (事故原因区分：G)
20130319	東京都	40歳代・女性1人重傷 (やけど)	約1年9か月	製造不良 (事故原因区分：A)
20130701	兵庫県	建物全焼 60歳代・男性1人、 60歳代・女性1人、 20歳代・男性1人死亡	約16年	原因不明 (事故原因区分：G)
20130827	大阪府	周辺を焼損する火災 70歳代・女性1人重傷 (やけど)	約29年	長期使用による経年劣化 (事故原因区分：C)
20150729	岐阜県	住宅全焼 40歳代・女性1人死亡	約2年	原因不明 (事故原因区分：G)

(エアコン)

発生日	発生場所	被害状況	使用期間	事故原因
20111130	京都府	周辺を焼損する火災 70歳代・女性1人死亡	約1年5か月	原因不明 (事故原因区分：G)
20120802	愛知県	住宅全焼 70歳代・男性1人死亡	約14日	原因不明 (事故原因区分：G)
20130317	神奈川県	周辺を焼損する火災 1人重傷(やけど)	約7年	小動物によるトラッキング (事故原因区分：F)
20140127	石川県	住宅全焼 70歳代・女性1人死亡	不明	延長コードに接続 (事故原因区分：E)
20140722	鹿児島県	建物全焼 80歳代・女性1人死亡	約5年	原因不明 (事故原因区分：G)
20150427	東京都	製品破損 1人重傷(裂傷)	約4年	事業者の施工不良 (事故原因区分：D)
20150913	愛知県	住宅半焼 1人死亡	約25年	調査中 (事故原因区分：H)

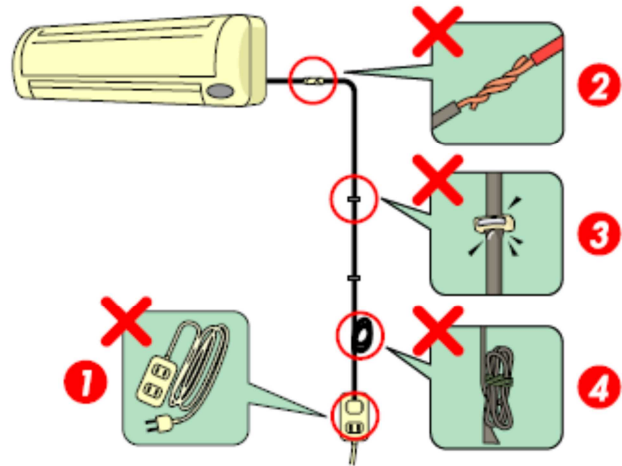
エアコン取付工事やエアコンクリーニングに携わる事業者のみなさまへ^{※9}

エアコン取り付け時にはここにご注意ください

エアコン取付工事は「据付説明書」「電気設備技術基準」に従って適切におこなってください。

電源コード

- 延長コードの使用やタコ足配線はしないでください。(⇒ ①)
- 切断やつぎ足し接続などの加工はしないでください。(⇒ ②)
- ステップル等での固定はしないでください。(⇒ ③)
- 極度に折り曲げたり、束ねたりしないでください。(⇒ ④)



エアコン洗浄時にはここにご注意ください

エアコン洗浄は、エアコンの機種ごとに適切に洗浄してください。

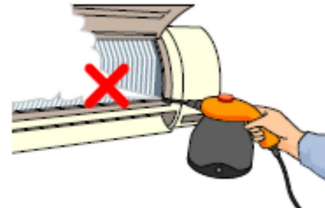
現場に入る前に

- 洗浄剤は、樹脂材（プラスチック）や金属部を侵さない適正なものを使用してください



作業中は

- 樹脂部品に損傷を与えるような高温高圧スチームでの洗浄をおこなわないでください



作業中は

- 電気部品、ファンモーターなどには“絶対に”洗浄剤がかからないようにしてください

作業が終わったら

- 汚れが排水経路に詰まらないようにして十分すすぎをおこなってください



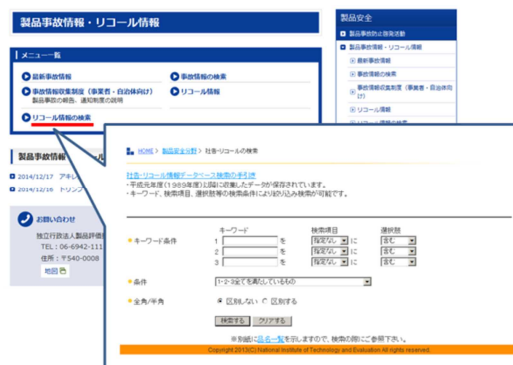
(※9) 経済産業省とNITEで作製し各関係団体に配布したチラシより引用。詳細は以下のホームページを参照。

http://www.meti.go.jp/product_safety/producer/secchimizen.html

リコール情報について

NITE ホームページにおいて、平成元年度（1989 年度）以降に製造事業者、販売事業者等の事業者が行ったリコール情報を収集したデータベースを公開しており、リコール情報の検索を行うことができます。

なお、NITE に通知されたエアコン・扇風機のリコール情報については、次ページ以降に記載しています。



<http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php>

検索サイトを利用する場合は、「NITE リコール」等の単語で検索してください。